

商工会・商工会議所のためのRESAS活用術

一関商工会議所 経営支援課 菅原 恒

本日のテーマ

① これまでの取り組み事例

- ・ 一関市、平泉町における観光・農業の分析
- ・ 「食と農の景勝地（農林水産省）」の認定に向けた検討

② 現在取り組んでいる、今後取り組みたい事業

- ・ 経済動向調査、事業者支援の実施
- ・ 起業支援、農商工連携、事業承継など、会議所業務への活用
- ・ 一関・平泉地域連携DMOの設立に向けた検討

③ RESASデータの分析・活用に向けて

- ・ RESASを活用して考えたこと

① これまでの取り組み事例

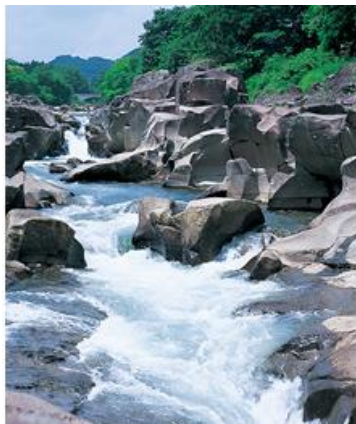
①-1 これまでの取り組み事例

□ 岩手県一関市について

人口： 121,583人
(平成27年国勢調査)

面積： 1,256.42km²

※ 人口、総面積ともに**県内第2位**



巖美溪



猊鼻溪



①-2 これまでの取り組み事例

□「平泉の文化遺産」の世界遺産登録

- ・平成23年6月に登録が決定

資産名：

平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び
考古学的遺跡群－

（中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山）



地域に対する影響・効果

- ・ 滞在人口、インバウンドの増加
- ・ 農産物など地域資源を活用する動き
- ・ 観光誘客に向けた機運の高まり



中尊寺金色堂



毛越寺

①-3 これまでの取り組み事例

□ 一関・平泉のもち食文化

- ・ 地域文化に深い関わりを持つ「もち食」と、伝承のための取り組み



多種多様なもち料理の
バリエーション



藩政時代から伝わる
もち本膳料理・食儀礼



各地のもち料理が集まる
「ご当地もちサミット」

参考・引用：一関もち食推進会議資料

□ 「一関もち食推進会議」

- ・ 地域の産学官民の関係者で構成（平成22年設立）
 - イベント支援、もち本膳・もちつき体験の実施、学校給食での活用普及など

①-4 これまでの取り組み事例

□「食と農の景勝地」の認定申請に向けた検討

『農泊 食文化海外発信地域 - Savor Japan -
(旧称：食と農の景勝地) 』

- ・ 訪日外国人の**観光需要**を、農林水産物・食品の**需要拡大**や農村漁村の**所得向上**につなげる取り組みを認定する事業



一関もち食推進会議が中心となり、申請・登録を目指す方針が決定



◎ 商工会議所が、RESASによる**データの分析・提供**を行うことに

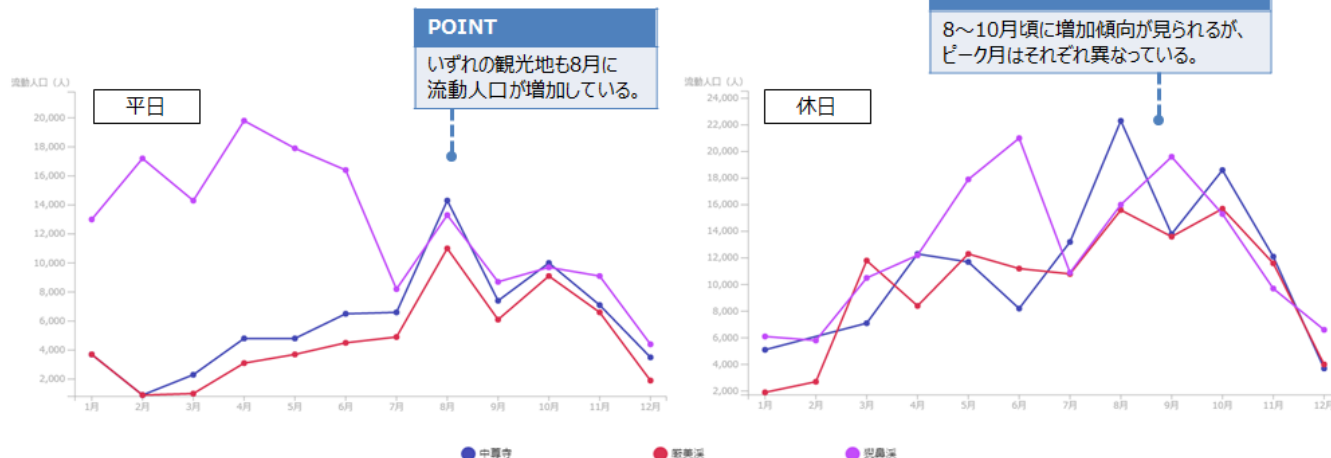
- ① **観光分析**（流動人口、滞在人口、目的地分析、インバウンド他）
- ② **農業分析**（販売金額、農産物関連事業、農業者分析他）

①-6 これまでの取り組み事例

1-8 来訪者傾向分析 – 来訪時期（メッシュ分析）

中尊寺・厳美渓・狛鼻溪において、平日では8月に流動人口が増加する傾向が見られる。また、休日では8～10月頃に増加傾向が見られるが、ピーク月はそれぞれ異なっている。

※ 2014年8月



出典：RESASデータ（株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」）

現状・要因等の仮説

- ・夏休みや紅葉シーズンなどに観光客が増加している。
- ・来訪者が域内で複数の観光地を周遊している。

方向性と期待される効果

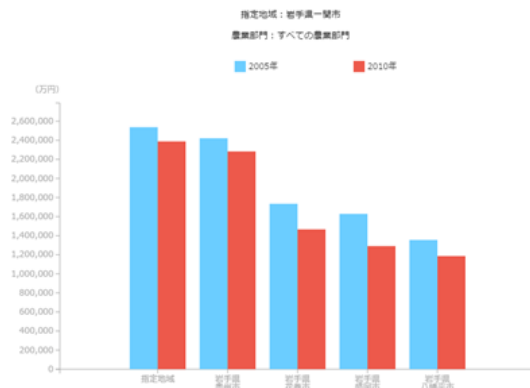
- ・夏や秋などピーク時期の回遊促進による滞在率の向上
- ・冬などオフピーク時期の観光PRによる観光客の増加

①-7 これまでの取り組み事例

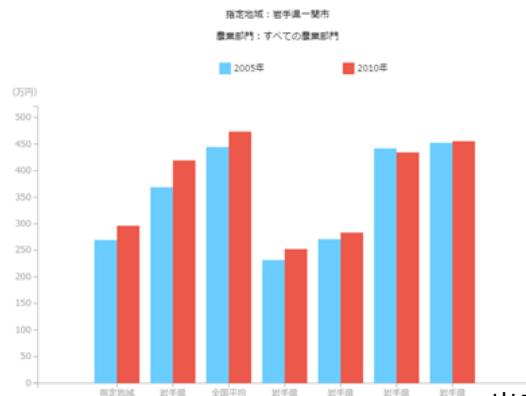
農産物販売金額 – 県内市町村との比較

一関市

農産物販売金額（総額）



農産物販売金額（経営体あたり）



【岩手県内市町村別 農産物販売金額 順位】

順位	市区町村名	販売金額（万円）	順位	市区町村名	販売金額（万円）
1	一関市	2,388,300	11	金ケ崎町	679,550
2	奥州市	2,283,175	12	紫波町	658,475
3	花巻市	1,465,900	13	九戸村	601,250
4	盛岡市	1,291,050	14	遠野市	594,575
5	八幡平市	1,186,200	15	一戸町	577,150
6	二戸市	1,028,150	16	軽米町	566,275
7	岩手町	967,525	17	葛巻町	489,675
8	洋野町	953,125	18	矢巾町	486,425
9	北上市	901,700	19	滝沢市	461,500
10	雫石町	800,775	20	住田町	455,100

・岩手県内市町村における農産物販売金額を見ると、一関市は県内で最も高くなっている。

・販売金額上位5市（一関市、奥州市、花巻市、盛岡市、八幡平市）では、2005年から2010年にかけて、一関市を含む5市全てで減少している。

・また、上位5市における経営体あたりの販売金額を見ると、一関市は岩手県平均、全国平均を下回っている。

出典：RESASデータ（農林水産省「農林業センサス」）を基に再編加工

①-8 これまでの取り組み事例

□ 目標・ビジョンの決定と、施策への展開

＜取組のキャッチフレーズ＞

「日本のもち食文化と黄金の國の原風景」

＜5つの施策＞

- ① もち食の魅力**発信**
- ② **新商品**等の開発ともち食**提供体制**の強化
- ③ 農林産物等の**安定供給**や**輸出**に向けた対応
- ④ 地域連携による**誘客**の促進と**受入態勢**の整備
- ⑤ 次世代を担う人材の**育成**



参考・引用：一関もち食推進会議資料

平成28年11月、一関市・平泉町が第一弾の取組地域として認定

② 現在取り組んでいる、 今後取り組みたい事例

②-1 現在取り組んでいる、今後取り組みたい事業

□ 地域産業活性化支援室

一関市内の産業・企業間における連携のあり方を検討し、新事業創出や地域活性化への展開を促すため、平成26年度から所内に設置した組織。

→ **産業活性化**に向けた活動を展開

- (1) 企業訪問
- (2) 新商品開発
- (3) 起業・創業支援
- (4) 農商工連携



ピーマン味噌本舗（起業・創業支援）



地元シェフ等との合同試食会（農商工連携）

＜データ活用の可能性＞

- ・ **起業・創業支援**における外部環境（売上・事業所数の推移等）データの活用
- ・ **農商工連携**の促進における産業・農業分析データの活用

②-2 現在取り組んでいる、今後取り組みたい事業

□ 中小企業支援室

市内における地域ネットワークを構築し、より効果的・効率的な経営支援を行うため、一関信用金庫との連携協定により、平成29年度から所内に設置した組織。

→ **事業承継**を中心とした事業を展開

<平成29年度主要事業>

- (1) 事業承継アンケート
- (2) 事業診断・承継支援
- (3) 関係機関との連携強化



一関信用金庫との連携協定締結式



事業承継アンケート

<データ活用の可能性>

- ・ **事業診断・承継支援**における外部環境データの活用
- ・ **事業承継アンケート**のクロス集計における産業分析データの活用

②-3 現在取り組んでいる、今後取り組みたい事業

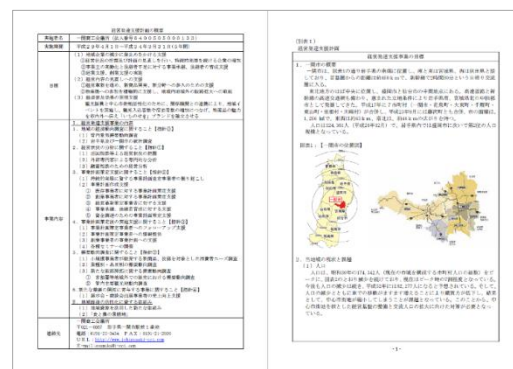
□ 経営発達支援計画

事業計画や地域活性化等に関して、商工会議所が策定する計画を、経済産業大臣が認定する制度。一関商工会議所では、平成29年3月に認定。

→ **小規模事業者**向けの支援を予定

<事業内容の項目例>

- ・ **地域の経済動向調査**に関すること
- ・ **事業計画策定支援**に関すること
- ・ **地域経済の活性化**に資する取り組み



経営発達支援計画（一関商工会議所）

<データ活用の可能性>

- ・ **経済動向調査**における産業データ（売上高、事業所数の推移等）の活用
- ・ **事業計画策定支援**における外部環境データの活用

②-4 現在取り組んでいる、今後取り組みたい事業

□ 一関・平泉地域連携DMO推進委員会

DMO候補法人の設立準備に向け、地元の若手経営者を中心に、(一社)一関平泉イン・アウトバウンド推進協議会が発足。関係機関により推進委員会を組織。

→ **DMO設立**に向けた事業を検討

＜今年度の取り組み例＞

- ・ 事業、財政計画策定
- ・ 登録に向けた申請事項の検討
- ・ 会員、スタッフ確保



協議会設立メンバー



推進委員会における検討会議

＜データ活用の可能性＞

- ・ **事業、財政計画策定**における、既存の観光・農業データの活用
- ・ **会員確保**や**企業マッチング**における産業分析データの活用

③ RESASデータの分析・活用に向けて

③-1 RESASデータの分析・活用に向けて

<1> データを使うことで、議論が進む、深まる

- ・ 客観的な情報のため、一定の正確性が担保される
→ 主観的な情報・議論に、**根拠**をもたせることができる
- ・ 「データ+α」の議論ができる
→ 分析内容とは違う視点から、**新しいアイデア**が出てくることも
- ・ ビジュアル化されており、データが分かりやすい
→ グラフを作成する負担がなくなり、データを活用する**機会**が増える
- ・ 活用事例に関する情報が入手しやすい
→ 利活用事例集やアイデアコンテストなど、**参考**となる事例が豊富

※注意※ RESASは万能のツールではない

- ・ データを100%網羅することは不可能 = 他のデータによる補完
- ・ データはデータでしかない = 見る角度によってすがたが変わる

③-2 データの分析・活用に向けて

<2> 分析・活用を進める2つの視点

○ グラフから、特徴や強み・弱みを読み取る （データ確認→現状把握）

→ 産業や観光等に関する資料を作成する場合など

（例）売上高、事業所数、事業所数の過去3期分の推移

- ・ 関連するRESASデータをまとめて、軸となる**基礎的な資料**を作成可能
- ・ 各経済産業局への**相談**や、分析手法例（関東局など）を**参考**に

○ 仮説を立てた上で、データで検証する （仮説設定→データ確認）

→ 事業やイベントの計画を立案する場合など

（例）商工まつりを行う時期、来訪者の出発地

- ・ イベントの**見直し**や、新事業を**検討**する際に活用可能
- ・ 感覚的な情報と客観的なデータの**照合**のため、実感として理解しやすい

③-3 データの分析・活用に向けて

<3> 地域の人々の知見・経験・感覚が重要

・データを活用する上では、地域に対する**肌感覚**が重要になる

→「見える化」した地域の現状に対し、どのようにアプローチするか

<地域に関する情報>

(例)

- ・地域で強い産業は製造業だ。
- ・観光客が増えるのは、10月頃だ。
- ・若い世代の人口が減少している。



<RESASによるデータ>

(例)

- ・製造業の売上高は、全体の70%。
- ・滞在人口は、10月に最も多い。
- ・20代の域外への転出割合が高い。

○ 現状の確認 (**再認識**)

→ 事業を進める根拠となる、客観的データを体系的に提示できる

○ 現実と感覚のズレの確認 (**新しい気づき**)

→ 新しい取り組みを検討できる、これまで進めてきた事業の内容を修正できる

○商工会、商工会議所は、地域の事業者にも最も身近な存在

- ・経営支援、会議開催、イベント実施、受託事務、各種機関との連携調整など、業務内容は多岐にわたる
- ・地域の方々と、会議やイベントを通じて、さまざまな場面に関わることが多い



- ・データを分析することで、地域の実情だけではなく、事業者や関係者の皆さまの、**思い**や**考え**を「見える化」できる

- ・データを活用することで、議論を深めるとともに、事業の**実効性**や外部への**発信力**を高めることにつながる

RESASを活用しながら、同じ商工団体として、
地域の産業を大いに盛り上げてまいりましょう！